

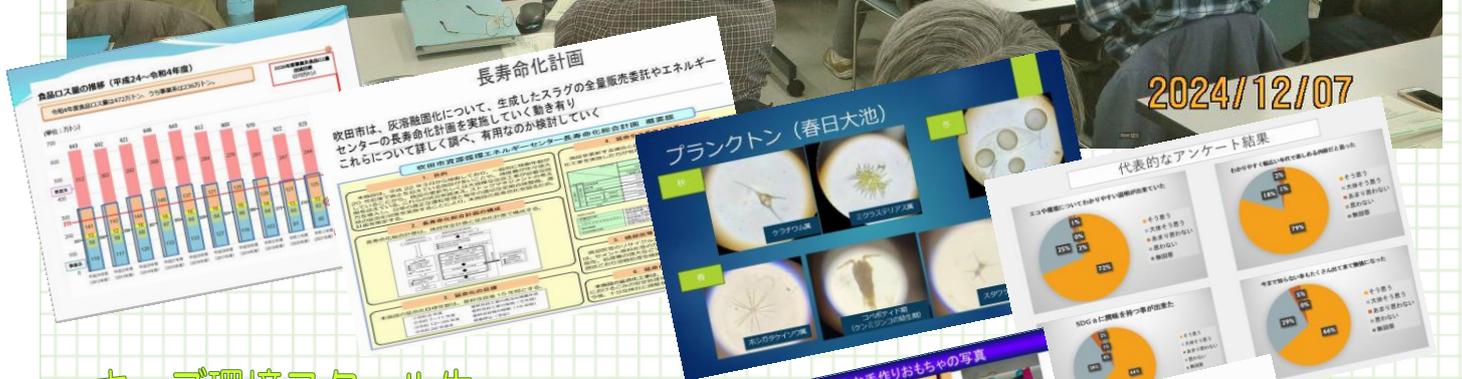
# しみんけんきゅうニュース

発行:(公財)千里リサイクルプラザ 市民研究所 〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園4-3  
TEL 06-6877-5300 FAX 06-6876-0530 <http://www.senri-recycleplaza.or.jp/>

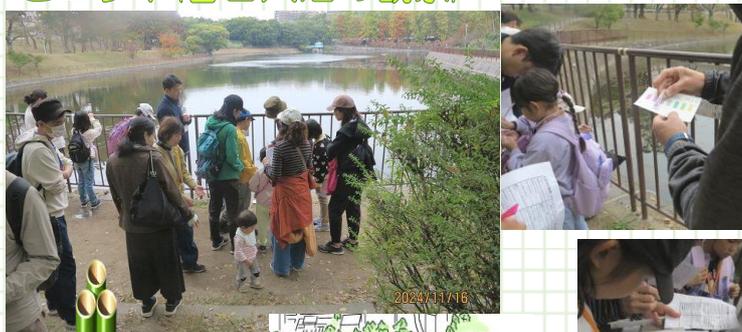
## 市民研究所 研究実践発表会 開催 2024 12/7



- 【目次】
- P2 TOPICS
  - P3 各チーム活動報告
  - P4-5 特集 研究所長
  - P6 主担研究员コラム
  - P7 市民研究所通信
  - P8 1・2 月行事予定



キッズ環境スクール生  
+ 身近な環境を調べようPT  
とコラボ(春日大池の観察)



スクール生第7回講座として  
発表会に参加しました。  
また池の観察コラボを  
しました。  
本年もよろしくお願いします



# TOPICS

## もったいないバザールに参加しました

10月19日（土）開催したもったいないバザールに参加しました。

当日、午前から雨が降り、来場者数を心配したが、多くの家族に来ていただいた。出展者はプラザのプロジェクト、アクションチーム、企業、大学生が、参加し、ワークショップ、展示、オークション、かえっこバザールなど16種類の出展があった。我々は手作りおもちゃ体験を行った。おもちゃは『十字プロペラ』で、体験者は2才から小学生低学年（保護者同伴）で19人が体験した。

全員上手く作成し、とても喜んで、飛ばして遊んだ。



（市民研究員 綿谷 一）

## くるくる環境スクール第5回講座 自然観察会

### ～春日大池を調べる～

「池の観察チェックシート」を見ながら「水はきれいですか？」などの項目ごとに観察し、簡易な水質調査も行いました。池には、オオバンとヒドリガモがいて私たちに近づいてきました。観察の後、ため池の生き物のクイズや松ボックリのクリスマス・オーナメント作りも行いました。“自然に触れられて貴重な経験が出来た” “クリスマス飾り作りが楽しかった” などの感想が寄せられました。

（市民研究員 岡本 陸奥夫）



## プロジェクトチーム（PT）・アクションチーム（AT）活動報告

### 市民とお店をエコでつなぐ PT

小学校のクラブ支援では、環境について楽しく学べるゲームをおこなっています。研究活動も進めており、各メンバーがそれぞれの研究テーマを掘り下げ、定例会では活発に意見交換しています。

### 吹田ごみゼロシステム研究 PT

研究実践発表会の報告内容を各メンバーが準備。定例会において、主担研究員から指導助言を受け、3名で発表した。なお、神戸市の資源ごみステーション「エコノバ」に年明けに視察を予定。

### 身近な環境を調べよう PT

キッズ環境スクールの講座として、春日大池での自然観察会を実施しました。池の観察・調査をスクール生の子どもたちと一緒にいき、松ぼっくりを使ったクリスマスオーナメント作りをし、吹田の自然に親しんでもらえたようでした。



### SDGs 啓発 PT

12月は環境出前講座が3回もあったので、担当者の確保が大変であった。キッズスクール最終講座では、「なんでやろう食品ロスカードゲーム」と食品ロスを学ぶための導入として「野菜クイズ」を行った。また、環境事業協会と連携して着物の端切れを使ったメッセージカード作りも合わせて行った。

### 手作りおもちゃと環境 AT

年内は12/18までクラブ支援があり、今年もあっという間でしたがメンバーで協力し合って活動してきました。来年度の活動に向け一緒にチームを盛り上げてくれる仲間が増えるといいな、と思います。

### 紙すき体験と環境 AT

今年度に入って紙すきの技術はもちろん、パワーポイントを使っでの説明を練習し頑張ってきました。先日行われた研究実践発表会でも、その成果が活かされ分かりやすい説明で熱心な活動が伝わったのか、環境スクール生から紙すきATへの興味を引いたというコメントがあり嬉しかったです！

### マイ食器啓発 AT

ロスフェスタは雨で残念でした…また来年頑張ります！ くるくるクリスマスでは豚汁を提供してマイ食器の啓発を行いました。次号のニュースで報告記事を掲載予定です！

# 市民研究所の方向について

市民研究所所長 三輪信哉

## 1 主担会議での話し合い

市民研究員の皆様には、プロジェクトチームPT、アクションチームATで、研究、出前講座、各種イベントと活発に活動頂きましてありがとうございます。

市民研究所には市内外の大学研究者の主担研究員が私も含めて8名おり、事務局の職員と共に市民研究員の皆様の研究活動のお手伝いをしております。2か月に1回、主担会議や事務局も入った研究運営委員会を行っており、研究所の企画・運営について話し合いを重ねております。ここでは市民研究所の次代を見据えた展望について考えをお伝えしたいと思います。

## 2 プラザの当面の四つの柱

2023年秋より市民研究員、主担研究員、プラザ事務局の皆さまの話し合いの中から、市民研究所ならびにプラザの方向として、次の四つの方向を軸に、指定管理の審査を受ける2026年（令和8年）までに改善をはかっていこうとしております。1）環境教育、2）見える化情報化、3）国際化、4）関西万博の四つについて進めております。

それぞれについてお話しすると、「環境教育」では、小学校や公民館などへの出前講座、また学校での環境教育への支援の改善について話し合っております。「見える化情報化」では、プラザは啓発施設として学校からだけでなく、国内外から多くの方が見学にいられています。施設の展示や案内の内容のアップデートを

図るとともに、より深い啓発ができるようにと検討を重ねていきます。「国際化」につきまして、途上国から沢山の見学者がやってきます。さまざまな表示の多言語化、また施設案内の多言語化が求められています。何より吹田市、日本が重ねてきた循環型社会形成の取り組みを海外に発信していく必要があると考えます。「大阪・関西万博」につきましては、明年の万博で、リユース食器使用で貢献すべく、京都のエコトーンと共同で取り組むよう進めております。

## 3 環境教育について

毎年3千人近い小学4年生がプラザ施設を見学に来ています。プラザ創立以来約9万人、現人口40万人の4人に1人はプラザに来たこととなります。また市民研究員の皆様のご努力で環境スクールや授業などでの出前講座に取り組んでおります。

プラザの特徴の一つは、学校OBの方々がかかわってくださっていることです。どこの啓発施設もそうですが、学校とのスムーズな連携をはかることはとても難しいとされています。教育現場の実情の理解や、教育委員会、教育センターなどとの繋がりなど、部外者が簡単に連携の道筋を作ることは困難です。

また、PT・ATで取り組んでいる出前講座についても、教師としての観点から深い学びに高めるためには、長年教師を務めた経験のある方からアドバイスを頂いて初めて可能になるのだ

と思います。

現在のところ「環境教育 PG」(PG:企画グループ)を設け、環境アドバイザー(教育)(学校OBの方々)が①出前講座に参加しアドバイスを行う、②見学と一体となった教室での授業案の作成、③学校教員対象の夏季研修プログラムの作成に取り組み始めました。

また「見える化情報化 PG」も年始より施設案内も含め立ち上げ、エネルギーセンター・破碎選別工場・プラザの三者が統合された施設案内ならびに展示内容の検討に着手したいと考えております。

#### 4 ESD 活動推進拠点

プラザは、前述のように小学生をはじめとする多くの来館者を迎えるとともに、学校教育の現場にも PT、AT の皆さんが積極的に出前講座に取り組んで下さっております。これまでの市民研究員の皆さんの地道で継続的なそうした環境教育の取り組みがあり、文科省・環境省が認定する「ESD 活動推進拠点」として 10 月 7 日に登録を完了することができました。ESD は国連主導で始まった「持続可能な開発のための教育」のことで、それをさらに国内で行き渡らすために、全国には 199 の拠点施設があり、関西でも 17 施設が ESD の活動拠点として登録しています。これからも学校や社会を対象として環境教育の提供につとめていく方向です。プラザの登録内容は次の URL をご覧下さい。

<https://esdcenter.jp/kyoten/#kinki>

#### 5 市民研究所の今後について

現在、地球温暖化問題、生物多様性問題、プラスチック問題、食ロス問題と、これらのグローバルな問題は、全ての国が自分事として解決

しなければならない問題で、国際的な場で議論が重ねられています。

またそれに応じて国内でも、様々な環境関連の基本法が出来て、それを守ればすべて解決できると見えますが、果たしてそうでしょうか。

たとえば先日、消費者庁がレストランなどでの食べ残し持ち帰りのための指針を作りました。しかし、市民の視点から言えば、そのこと自体が知られてはいないですし、なぜ食べ残しをしたらいけないのか、マイ食器は何故持つていくべきなのか、食べ残しを持って帰れる店がどこにあるのか、などなど、市民自身が意識を高め、行動変容し、またそれを促すための情報や場の提供がなされなければ、何時までたっても社会は変わりません。制度がいくら整っても、制度と個々人を繋ぐ間が埋められなければ社会は変わりません。だからこそ、市民の目線で一般市民の方々に知ってもらい、また市内の仕組みを変え、時には制度を変えて行くことも必要になります。

啓発施設としてのプラザや焼却施設は全国で 200 近くあるとされていますが、市民が研究活動をし続けている施設は全国でここしかありません。世の中を変えていくためには、市民研究活動がもっと世に知られ、「環境研究」、「環境教育」、「環境啓発」、「社会変革」を意識して、世の中に積極的に働きかけていく必要がさらに大きくなってきていると言えるでしょう。

未来の環境のために、なくてはならない市民研究所、なくてはならない市民研究員の皆様です。さらに多くの方々に市民研究の楽しさを伝えて、研究・実践の輪を広げてまいりましょう。

## 「環境」や「エコ」ということばー「環境」を超えて

主担研究員 内田慶市

私の専門は中国語と東西の言語文化接触の研究であるが、特に「ことば」についてその起源や派生的意味などに関心がある。今回は、今ではごくごく当たり前に使われている「環境」と「エコ」という言葉について考えてみることにする。漢字で書かれているから全て中国を起源とすると考えられがちであるが、実はこの2つはいずれも日本人が考え出した言葉である。

### 1. 「環境」という言葉ー「Environment」の訳語

「環境」という言葉自体は中国の古い文献でも登場する。例えば、北宋時代の『新唐書』という本には「時江南環境為盗區」（当時、江南の「周り」は山賊が多く出る場所だった）のように見えるし、元時代の『元史』でも「環境作堡砦，選精甲外捍而耕稼其中」（「環境」に砦を作り、選りすぐりの兵士で外を守らせて、その中で耕作を行う）とある。つまり、「環境」の原義は「四周を囲まれた境域、四方の境」という意味で使われている。これが今のような「環境」すなわち Environment の意味で使われるようになったのは中国では 20 世紀に入って随分経ってからである。蔡元培の『魯迅全集』の序文(1938)にある「有這種環境，所以歷代有著名的文學家、美術家・・・」（このような「環境があつてこそ、歴代に有名な文学者、美術家が現れた・・・」）がそれである。ところが、日本では 19 世紀の後半にすでに「まわりのもの」といった今の「環境」とほぼ同じような意味で使われ始めていた。例えば、ヘボン式ローマ字を作ったヘボン(1815-1911)の『和英語林集成』では Environment の訳語として「n. Mawari no mono」という説明が見られる。実はこのように明治期に日本人が作った訳語が中国に逆輸入した語彙は沢山ある。「文化」、「文明」、「文学」、「科学」、「民主」、「哲学」、「経済」、「機械」、「機会」、「社会」、「教育」、「労働」などいずれもそうであり、「環境」もそうした言葉の一つなのだ。たとえば、「文学」と

いうのは元々は「文学、子遊、子夏」のように『論語』にも出て来る言葉ではあるが、それは「文章博学」という意味であるし、「経済」とは「経世済民」（世を治め、民を救う）という意味である。それらを Literature や Economy の意味で使ったのは日本人であった。

2. 「エコ」という言葉ーすでに紙幅が尽きているので、これについては簡単に述べておくと、「エコ」「エコロジー」という言葉を世界で初めて使ったのは和歌山出身の博物学者、生物学者の南方熊楠(1867-1941)である。明治政府の神社合祀による熊野の社林の伐採によって植物や菌類が絶滅することを危惧した南方はその反対運動を始めたが、その過程で民俗学者の柳田国男とも交流が始まり、柳田との書簡の中で、「ecology」、「エコロジー」、「エコロジー」といった言葉を使って熊野の自然環境保護運動を展開した。まさに環境保護の先駆であり、それによって「熊野古道」は守られたのである。現在、「environment」は「(人間を取り巻く、または人間を除いた) 自然環境」という意味で、「ecology」は「(人間を含めた、または人間と自然環境とのかかわり合いに視点を置いた) 環境」、または「環境保護」という意味で使われているが、「環境」という言葉がそもそも「自分の周り」=「自己中心」の内容を含む以上、また「環境」の本来の意味を考えた時、そこには「地域」「区域」つまり、「国境」「縄張り」意識がそもそもの始めから存在している。いずれも、明治の日本人の知恵が生み出した造語であるが、今はその「周りの」「境界」を超えるべき時ではないのかと思っている。グローバル化というのはそのように考えるべきであり、環境保護も地球全体、国境を越えた形で進めなければならないのだと私は考えている。「環境を超えて」というのはその意味である。

# 市民研究所通信

## くるくる環境スクール

### 施設見学バスツアー 11月30日(土)



くるくる環境スクール生のみなさんと施設見学バスツアーに行ってきました。

「さすてな京都」は開館5周年の施設で、プラザとは違った展示の工夫がなされていて、設備面以外にも、京大生によるごみ組成調査など、興味深い内容でした。また、リチウムイオンバッテリー廃棄時の発火事故が、京都市でも問題になっていることを知りました。

「京エコロジーセンター」では、プラザのように「エコメイト」というボランティアの方々が案内してくださりました。とても気持ちのこもった説明が印象的で、聞き入ってしまいました。

今回は、スクール生以外にも市民研究員や施設案内専門員、環境アドバイザーの方々も同行し、バスの中でも交流を深めました♪



## くるくるプラザ情報発信中！

私たちは持続可能な社会に向け、ごみの減量、再資源化及び再生利用を図り、快適な生活環境づくりと循環型社会を形成するため、市民のリサイクル活動を推進する拠点施設である吹田市資源リサイクルセンター（くるくるプラザ）で、市民目線での環境啓発、研究、実践活動等を行なっている団体です。くるくるプラザには7つのチームで活動をしている市民研究所と4つの工房があります。発見や体験をしていただき、楽しく環境問題に取り組んでいけるように行事を開催しています。くるくるプラザの情報を日々発信していますので、SNSをフォローしてください。くるくるプラザでは、使い捨てをなくすために持ち運びに便利なオリジナル容器を作製しました。折りたためるマイ容器を持参して、ごみを減らしましょう。



## 研究所 1 月の予定

日	曜	催し	時間・場所	備考
1	水	休館日		
2	木	休館日		
3	金	休館日		
4	土			
5	日			
6	月	休館日		
7	火			
8	水			
9	木	定例会	14:30～プラザ	SDGs啓発PT
10	金			
11	土	第10回代表者会議	13:30～プラザ	所長・代表者・事務局
12	日	定例会	13:00～プラザ	手作りおもちゃと環境AT
13	月	休館日		成人の日
14	火	休館日		振替休館
15	水	定例会	14:00～プラザ	ごみゼロシステム研究PT
16	木	市民研究所ヒアリング	10:00～15:30 プラザ	研究所各チーム・事務局
17	金			
18	土			
19	日	定例会	10:00～プラザ	市民とお店をエコでつなぐPT
20	月	休館日		
21	火			
22	水			
23	木			
24	金	ESD研修	13:00～プラザ	
25	土	定例会	10:00～プラザ	身近な環境を調べようPT
26	日	ぐるぐるサロン	13:30～15:00 プラザ	●
27	月	休館日		
28	火			
29	水			
30	木			
31	金			

## 研究所 2 月の予定

日	曜	催し	時間・場所	備考
1	土	第11回代表者会議	13:30～プラザ	所長・代表者・事務局
2	日	定例会	13:00～プラザ	手作りおもちゃと環境AT
3	月	休館日		
4	火			
5	水			
6	木			
7	金			
8	土	環境教育フェスタ *環境学習発表会*	10:30～15:00 メイシアター	
9	日			
10	月	休館日		
11	火	休館日		建国記念の日
12	水			
13	木			
14	金	第5回研究運営委員会	14:00～プラザ またはZoom	主担・代表者・事務局
15	土			
16	日	動画コンテスト表彰式	11:00～プラザ Zoom参加あり	受賞者・所長・主担・事務局
17	月	休館日		
18	火			
19	水			
20	木			
21	金			
22	土			
23	日	休館日		天皇誕生日
24	月	休館日		
25	火			
26	水			
27	木			
28	金			

は、資源リサイクルセンター（ぐるぐるプラザ）の休館日です。●は、一般の方も参加できます。詳しくはプラザまで。

※予定は、変更する場合があります。